

木は1年に1回果実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。
【3~5年で資金3倍化を目指して】

■■ 日柄調整か値幅調整かの様子見 ■■

第15号(8/6)では、低位株の水準訂正を待つとしました。買い方としては、7月11日(金)までの時点では、9000円水準と9000円割れ水準の2つを下値ポイントとして待つとしてきましたが、7/13(月)に▲236円の9050円をつけて、この日の引け後のNYダウの急反発から日経平均も上昇に転じてしまいました。アメリカの主要3指数はすべて年初来高値更新となりましたので、日経平均も出遅れ感から買われ7/31(金)には△191円の10356円となってこれまで関門としていた2007年6/30高値18297円、2008年6/6の14601円を結ぶ下降ライン(関門)を上をぬけました。この場合は、関門をぬけたからといって、そのままどんどん上に行くことを意味しないとしました。その後の動きはアメリカ株式がさらに上値を試す動きとなったため薄商いの中を先物主導で上昇し、8/14(金)にはザラ場では10630円まであって終値では10597円の年初来高値更新となりました。この週はコール(買い)有利のSQ値算出の日であったために、SQ値を高くしようとする動きがでて高くなった側面があります。この2週間の動きをみると日経平均の指数に連動する主力株中心の動きでありその他に動くものは、上方修正した銘柄となっていました。

今週になって中国株式の急落から、日米ともに調整にはいつてきましたが、低位株の水準訂正は一部の上方修正銘柄(日本金属)やインフルエンザ関連銘柄(シキボウ)などに限られています。今回の調整が今のところ日柄調整(10000円を割らずにもみあって調整を終える)、値幅調整(10000円を割り込んで調整を終える)がありますが、どちらになるかわかりません。値幅調整すれば低位株もつれ安しますので新規の買いは、少しずつ買い下がりとなります。NYダウは9600ドルに達してくると経済の実態を見る動きとなるので下落に転じるとしましたが、すでに8/7(金)には9437ドルまで上昇しました。楽観論から期待で買われ過ぎたという見方もでています。全体的なトレンドとしては現時点では上昇トレンドですので、下げれば絶好の買い場となりますが、長期投資以外の方は、相場が上昇に転じて低位株の水準訂正が行われだしたら確実に利食っていくことが大切です。世界経済の不透明さはまだ晴れていません。今回の調整が終わって再上昇したあとは、要注意となってきます。

上海株式の反発待ちとしましたが、昨日のNYダウが先取りして△61ドルの9279ドルと反発し、本日の日経平均は上海株式が大きく反発したことで△179円の10383円となりました。こうなると日柄調整の可能性が高くなりましたが、どちらかという中途半端な下げからの戻りとなります。NYダウは25日移動平均線を割ったところで買いがはいりました。この形ですとこのまま陽線が連続して8/13の9398(ザラ場高値9448ドル)の年初来高値をぬけてくると今度は売りの形に変わってきます。ここで反発した以上、次の下げを待ち保有株で大きく上昇するのがあ

れば長期保有の人以外は利益確定優先となります。選挙日にむけて高値を更新してくる動きになれば材料出尽くしの可能性もあります。

以下、 出島投資ワールドの 8/17(月)、8/18(火)のメッセージを掲載します

8/17(月) ■■ このまま値幅調整となるのか日柄調整となるのか ■■

先週末(8/14)はSQ 値算出日でオプションからみるとコール(買い)有利の週で清算値を高くする動きになるとしたように清算値は 10609 円となり、日経平均は前場は上回って引けましたが、後場になると週末ということやアジア市場が軟調だったこともあり、△80 円の 10597 円とわずかですが清算値を下回って引けました。引け後のアメリカ市場は、NY ダウで▲76 ドルの 9321 ドルとなっていることで週明けは下げて始まるのが想定されました。結局、為替も 94 円台の円高となったことで輸出関連株中心に大幅下落となり、▲328 円の 10268 円で引けました。

<民主党政権誕生で株式は上昇するのか?>

今日は大きく下げましたが、全体的には上昇相場ですので押し目買いとなります。大局は上昇相場だとしても、ここで日柄調整となるのか値幅調整となるのか、それとも大した調整もなくそのまま戻りを試すのかということになります。現時点では日米ともに 8 月いっぱい日柄と考えていますので、このまま投票日(8/30)の前まで買われますと翌週から下落の可能性が高くなります。一時的には投票日まで上昇して、民主党政権が誕生するとそこからさらに買われると思われがちですが、逆に材料出尽くしとなって下落すると考えた方がよいでしょう。現在の上昇はアメリカ株式の上昇や日本の経済指標の改善からの上昇であり、民主党政権の誕生は確実なのに一部の政策関連銘柄が一時上昇しただけで、期待で買われるという現象はおきていません。民主党政権の期待で買われるとしたら来週から月末にかけて調整にはいった場合です。その場合は民主党政権誕生がきっかけとなって反発というパターンが考えられます。

本日は、アメリカ株安、円高、アジア株安から▲326 円の 10268 円の大幅安となりました。この下落がそのまま日柄調整となっていくのか、さらに下げて値幅調整になっていくのかは、今週の NY ダウ次第となります。NY ダウは今のところ高値圏での上下動で横向きとなっています。こういう場合はもう 1 日陰線がでて次に 2-3 日小幅の陽線で返してくると、次に下げた時は大きな下げとなって 75 日移動平均線(先週末で 8657 ドル)水準までの可能性があります。その場合は、日経平均も同じく 75 日移動平均線(9715 円)水準まで下げてくることとなります。日米ともにいったん一服を想定しましたが、そのような動きになってきました。理想的には今月一杯調整して選挙の結果民主党政権の誕生を材料にした方が相場は長持ちすることになります。今日の下げがさらに下げるにせよスピード調整となって、すぐに切り返し月末に向かって高値を更新するような動きとなれば 8 月いっぱいの日柄を使ったことになり、民主党政権誕生で材料出尽くしとなる場合も考えられます。ここからの 2 週間はどのような動きをするのか注意してみる必要があります。

今回の選挙は、今後の日本経済を左右する選挙だと思われます。自民党は基本的には経済のパイを大きくすることに重点を置いており「大企業優先の経済政策」ですので個人消費の活発化までには時間がかかります。民主党は「国民生活重視の経済政策」で直接、国民に金を与える政策を通じて、個人消費

を活発化させようとしています。いわゆる内需拡大です。しかし、日本の経済は外需あつての内需の側面があり、どちらがよいのか判断に迷うところです。ただ、自民党政権が続けば官僚政治は変わらず民主党政権になるとしがらみがない分官僚政治打破の可能性があります。そのためには時間を要しますので、それを株式市場がどう読むかということになります。

<アメリカ株式が9月以降要注意となる背景>

前回、NYダウは上昇して9600ドル水準になると期待を織り込んで経済実体を見る動きとなるとしました。その後、押し目らしい押し目もなく先週の8/12(水)には9424ドルの高値がありました。かなりいいところまで戻ってきました。この背景には大型の景気対策によって経済指標が改善していることや、FRBの量的緩和策が過剰流動性を生み出し、株価を押し上げている“擬似バブルのような現象が起きています”しかし、その背景で株式市場のリスク要因といえるものがでてきています。

①新株発行による資金調達が増え続けていること

企業収益の改善や増配は見通し不明なのに増資が行われ、現在の上昇相場ではうまく吸収されましたが、需給の点で上値が重くなり将来の売り要因になりかねません。

②近い将来、FRBによる国債の買い入れ終了

FRBは、自国の国債を買い入れることで経済の安定を図ってきましたが、今後買い入れペースを落とし、10月末までに3000億ドルの買い入れを終えて事実上11月から量的緩和策からの脱却を図る。

③7月以降の上昇で、空売り筋は踏み上げられてしまった

7月初旬の上昇では、株式市場の先行き不透明で8~9月に大きく下げるとしてカラ売りが大量にはいっていた。しかし、7月半ば以降、夏の薄商いの中で強引な買いが指数投信による現物の買いを誘発し、相場が押し上げられてカラ売り筋は踏み上げられてしまった。日本市場の押し目のない上昇はこのアメリカ株式の上昇と連動しています。ここからは一段高を誘うようなカラ売りの踏み上げはない。

以上は、ここから一段高となって、さらに上値を試していく相場にはならないという見方ができそうですが、では大幅下落となっていくのかとなると大型の景気対策がまだ消化されてはおらず、(大型の景気対策は国家の借金で需要を先取りしている面がありますので、うまく景気回復が実現できなければ大きな2番底がやってくることになります)アメリカの景気はL字型の回復という見方になります。つまり、暴落後いったん底を打って底値圏でもみあうという展開です。その後、上昇するのか2番底をさぐりにいくのか、今のところわかりません。ある専門家の見方は「米国では政府の経済運営に対する失望が広がる可能性が高いこと(すでにオバマ大統領の支持率は低下してきています)流動性供給からの出口戦略を巡ってFRBは微妙なかじ取りを迫られ、同時に通貨ドルの信頼低下や米国の債務返済能力に対する懸念が再燃するリスクが大きく押し掛かっている(NYダウが上昇してもドルは買われず円高トレンド)のを忘れてはいけない」としています。

8/18(火) ■■ 先週の8/10(月)悪材料は中国株式の下落としたが、その動きになる ■■
… 今回は、NYダウも中国株式の反発待ちか …

現在の調整からの反発のきっかけは、中国株式(特に上海株価総合指数)がカギを握ることになりました

た。昨日のNYダウの大幅下落は上海株式が過去9ヶ月で最大の下げ幅▲176Pの2870P(▲5.9%)となったことで、世界経済の先行き懸念から原油価格などの商品相場が下落し、NYダウも▲186ドルの9135ドルとなりました。

この中国株式に関しては、8/10(月)のメッセージで次のように書きました。「今、悪材料で考えられるのは中国市場の動きがあります。先々週は1日だけでしたが金融引き締め観測から急落しました。そのあと中国当局が否定したことで反発しましたが、先週も大きな下げがありました。これは今、中国株式が高値波乱(天井圏にあって強弱の材料がせめぎあい)にはいつていることを示し、こういった上下動をくり返して調整にはいつていくのがふつうです」結局、天井圏での高値波乱(上下動)となって7月と8月でダブル天井を形成し、柴田罫線で売転換が出現し、昨日は▲176Pの2870Pとなって、75日移動平均線(2951P)を割り込んで引けました。中国株式の大きな下落は、今、アメリカにかわって世界最大の消費市場である中国市場の景気回復に懸念を生じさせることになり、世界の株式市場にも少なからず影響を与えることとなります。ただし、中国株式のさらなる大きな下落に対しては、政府が何らかの手を打ってくるのは間違いありません。そういう意味で今の調整は中国株式の反発というキッカケ待ちとなるかもしれません。ただし、NYダウのチャートからみると8/11(火)の終値9240ドルを終値で切って引けているので目先はちょっとした下放れのようにもなっても陰線が続いても買いの形となってきます。その目先の底が昨日述べた25日移動平均線水準なのか75日移動平均線水準なのかは中国株式にかかってきました。

コード 銘柄	8/20(木)の 終 値	買ポイント	短期売買の 利食いポイント	材料・テーマ
1518 三井松島 (2度目)	154 円	150 円前後 140 円前後	180 円前後	中間決算は上方修正。石炭価格上昇基調。資源関連の低PER(8倍)銘柄
6242 日本スピンドル	169 円	160 円台 140 ~ 150 円	200 円前後	環境関連機器(鉄鋼業界向け集塵装置など)今後アジア市場へ展開。PBR0.6倍

柴田罫線「諺」一〇八話集

罫線継承者 柴田 豊秋(柴田秋豊氏の長男)

～ 柴田罫線「諺」108 話集への思い ～

想い起こせば十九才より父に弟子入りし罫線に携わってから私も七十七喜寿を迎える年齢となり人生も残り少なく頭の回転が衰えない記憶がある内にと思い老骨に鞭打ち打ち最後のご奉公と筆を取りました。古来文人が掛軸にかかっている達筆でもなく誰でも読める自筆で執筆いたしました。

親子二代、八十数年を過ぎ父秋豊研究奥儀の数々を基礎に研究改良をし史料を発表しなければ親子二代後世に悔いを残す、あらゆる奥儀を発表する時期だと思い立ち著述に至りました。

私達軍国主義時代に育った年齢は悲しいかな子供、孫達も簡単に打てるパソコン、英語が大の苦手、原稿も自筆で文章も次々と浮かぶ苦勞の連続であり今日迄書き留めた連載、父秋豊から教えを受けた事、私が長い相場界で気づき疑問に思った事を「諺」として著述にからめ今後罫線投資に携わる人達の迷った時の一助になれば幸いと思っています。

古来の文人が掛軸にかかっているのは達筆で我々凡人には仲々読むことが出来ません、父からは文字は下手でも良い誰でも読める字を書く事と云われていたが、素人の事、文法上の誤り文面で重複することもありますが一話一話に意味が違いますので支障はありません。確かに父が研究し編み出した罫線観測、棒足順張り、逆張り、鉤足を発表して北海道から日本橋に移り住み罫線の復興に取り組んだが北海道の罫線屋一と揶揄され軽視されました。今日では罫線は「チャート」と呼ばれているが私は罫線と云う単語に愛着があり今後も罫線という文章一本で表現したいと思っております。

当時を振り返ると悔しく、辛い時期もあったが父の供をして一世を風靡した「赤いダイヤ」のモデルといわれた佐藤和三郎氏、売の山種と語り草となった山崎種次郎氏、立花証券の創設者独眼流のペンネームで執筆石井久氏、数々の相場師に会いお話をさせて戴いた事は相場観測の違いこそあれ、当時若かった私の人生の宝と思っております。普通なら後身に譲り隠居する歳ですが、父を初め諸先輩に追い付き追い越せの気持ちで筆を持ち書きつづけ死が来る迄、研究、罫線追及してゆきたい。

何如に奥儀を会得理解していても資金面様々の事情から大勢、中勢、目先、日計り売買に自ずと比の場面で果たして途転か利喰いか若しくは手仕舞いかの決断に迷いが生じたときの一助となればとの思いから罫線観測から見た一〇八話を今日迄の成功、失敗から感じた体験を「諺」として纏め投資の一助となればとの思いです。古来「諺」は古典古人の先駆者、先祖、先人から言い伝えられた人類の智恵の結晶だと思っております。日常何気なく使われている諺は誠に意味深い。

あらゆる科学が発達した現在と違い、天候の雨、雪の量、寒さ暑さから作物の種蒔き収穫時、日常の生活に密着し、「諺」として残り実際に何気なく伝えられ使われている。

私も含め何如に奥儀を吸収、理解していても必ずや出勤に欲が付きまとい迷いが生じる事もある。比の「諺」は投資の心得として読んで戴きたい。柴田罫線「諺」一〇八話集は相場投資、人生の奥儀とも思い信じている。投機、投資家は元より、相場に関係ない経営者、個人の皆様にも一読して戴き、人生の一翼となれば幸と思っています。

豊秋

※このページは初めての方のために毎回記載します
柴田秋豊氏に興味がある方は自伝を漫画化したものがあります。ズバ株 HP のトップページにあります
<http://www.zubakabu80.com/>

第十九話 押し戻りまで取ろうとするのは素人の遊び

過去相場師と今日迄語り言い伝えられた人物、父秋豊も同様だが、押し戻りは絶好の買い増し・売り増しのチャンスと、虎視眈々と狙ってきたと父に教えられ指導され、目先にこだわるなど教えられた。相場には必ずや押し戻りがあり、それが次回売買のエネルギーとなり騰落の原動力となる罫線観測はこのエネルギーの「力」の均衡を打破り示唆するのが罫線である。ネットの普及で手数料も安く簡単に自宅で売買ができ投資家自体が目先の利益に左右され小さく固まったように見えるが思い過しか。

第二十話 日計りに合った売買法で

日計り売買を非難し書いてきたが父又は過去にお会いした相場師の影響が強いのか。一般投資家も周りの環境、資金面で必ずしも日計り商いが悪いとは思っていないが、鉤足大勢張り、日計りでは鉤足の曲り「目盛り」が自ずと違い今一度研究検討すべきでないか。

第二十一話 新聞、雑誌、評論家は一個人の意見 罫線は延べ数千年の調査結果

各紙、諸先生方々も独自の研究資料を基に発表発言をしており尊重しなければならない。意見に賛同し支持できれば必ずしも罫線にこだわる事はないと思っているが、私は罫線のことしか知らない。経済評論家、アナリスト、IT 関連、投資家の意見をまとめたのが罫線の棒足、鉤足であり罫線観測だと思っている。今後経済国家である限り永久に「柴田罫線」を土台として飛躍し完全な罫線観測法則が発見され罫線観測の重要性に向かうことを願っている。